

古文 読解問題 「徒然草」神無月のころ①

①神無月のころ、栗栖野と^(a)いふ所を過ぎて、ある山里に尋ね入ること侍りしに、^(b)はるかなる苔の細道を踏み分けて、心細く住みなしたる庵あり。木の葉に埋もるる懸樋のしづくならでは、つゆおとなふもの^(c)なし。閑伽棚に菊・紅葉など折り散らしたる、⁽²⁾さすがに住む人のあればなるべし。

かくても^(d)あられけるよと、あはれに見るほどに、かなたの庭に、大きな柑子の木の、枝もたわわになりたるが、周りをきびしく囲ひたりしこそ、⁽³⁾少しことさめて、この木なからましかばと^(e)おぼえしか。

問一．「徒然草」に関する次の問題に答えなさい。

(1) 次の「徒然草」について説明した文の(ア)～(エ)に入る言葉を答えなさい。

「徒然草」は(ア)時代に(イ)によって書かれた(ウ)文学である。世の中の全てのは絶えず変化し続けているという(エ)に基づき死生観について書かれています。

(2) 「徒然草」は三大随筆の一つとされている。他二つの作品名と作者を答えなさい。

問二．傍線部(a)～(e)の動詞、形容詞、形容動詞の活用の種類と活用形を答えなさい。

問三．傍線部①「神奈月」を新暦にした場合何月になるか、適切なものを次の選択肢から選びなさい。

ア．七月 イ．八月 ウ．九月 エ．十月 オ．十一月

問四．傍線部②「さすがに住む人のあればなるべし」を現代語訳しなさい。

問五．傍線部③「少しことさめて」とあるが、その理由として最も適切なものを次の選択肢から選びなさい。

ア．柑子の木が実をたわわにつけている様子を見て、かつての家の豊かさを思い出し、悲しみの方が強くなったから。

イ．柑子の木が大きく育っているにもかかわらず実がなっていないのを見て、期待が裏切られたと感じたから。

ウ．昔の家の跡を見てしみじみとした感慨に浸っている最中に、庭にある木が人の手で嚴重に囲われているのを見て、現実に戻されたから。

エ．庭に残る柑子の木が、昔の持ち主の好みや生活ぶりを伝えていると感じ、過去を想像する思いが深まりすぎたから。

読解問題 「徒然草」 神無月のころ」 ① 解答・解説

問一. (1) ア 鎌倉(末期) イ 吉田兼好 (兼好法師) ウ 随筆 エ 無常観

(2) 枕草子 (清少納言)・方丈記 (鴨長明)

問二. (a) ハ行四段活用 連体形

(b) ナリ活用 連体形

(c) ク活用 終止形

(d) ラ行変格活用 未然形

(e) ヤ行下二段活用 連用形

問三. エ

問四. そうはいつでもやはり住む人があるからだろう

問五. ウ